

お元気ですか



新屋敷事務所: JR円行寺口駅前 823-5878
あぞの事務所: 846-2046 県議会 823-9524
北本町事務所: 北本町1丁目13-1上雅ビル1F



日本共産党

県政ニュース はた 愛

2024年6月30日 No.889

6月議会開会 母校応援ふるさと納税 動物愛護センター整備関連予算案審議

竹の市場価値向上へ 県、55%竹含有プラスチック開発



バイオマスプラが求められる時代

先日、視察先の県工業技術センターの取組みの中で、重要性を感じたのは竹を活かしたプラスチック製品を企業と共に県が開発し、県内に生産拠点が整備される動きになっている事です。

環境省は2022年4月からプラスチックの資源循環を進める法律をスタートさせました。

2030年までに有機資源由来の「バイオプラスチック」製品を開発、200万トン市場を目指すとしています。また、2035年までに使用済みプラスチックを100%リユース、リサイクルを目指すとなりました。これまでのプラスチックに替わる材として、竹に光が当たる意義は大きいと思います。

山の荒廃や災害が心配される中で、竹が捨てられる物から環境に活きる材、売れる材へ、価値が高まる事は中山間での仕事づくりにもつながります。

竹切り職人、県内でわずか数人

県内で竹を切り生活している職人は3人で、その内の一人が暮す、高知市の北部を若者たちと訪ねてきました。後継者がいない竹林整備の現実を厳しく職人さんは「売れる竹になる事は重要」と竹林を

案内してくれました。

また、竹炭は土壌改良材やCO2の土壌への固定にも有効とデータでも示されており竹炭作りが山で暮らす基盤のひとつになるのではと期待します。

おたまじゃくし

県内の中山間を視察中、アナグマ親子を発見！写真に撮ることができた。掘った巣穴をタヌキなど他の動物も利用する。ことわざ「同じ穴のむじな」の由縁でもある。ムジナとは、タヌキやアナグマ、ハクビシンなどを言う。

主に悪い意味での「同類」「同根」の例えにされてきたが、最近では自民党の裏金問題への見解を聞かれた公明党の山口代表が「同じ穴のむじなとは思われたくない」と発言した。それを聞いた市民から「連立政権をやめんがは同じ穴のむじなよ」とピシャリ。さらに与党を指し「どっちがタヌキで、どっちがアナグマか！」との怒りも聞く。本物のアナグマもタヌキも可愛いのに酷い政治の例えにされて、可哀そうに思う。偶然なのか、

オーテピア図書館・みらい科学館の展示コーナーには、はく製のタヌキとアナグマが並んで展示されていた。

巣穴が同じだけでなく、体もよく似ていて、目の周りの模様が少し違うだけ。展示中のアナグマから「あーやれやれ、また来てください」と聞こえてきそう。



お困りごと解決へ、アイデアを形にしよう “地域課題解決起業支援補助金”

地域を支える仕事に補助金

この制度は、県内の地域課題を解決する「社会的事業」に対して、経費の2分の1を区分によりますが、上限額100万円、200万円の支援をするものです。

補助金は人件費、原材料、備品購入、印刷製本、賃借料、修繕費など使えます。

対象は新たに起業する方、事業継承、第二創業(チャレンジ)を目指す方です。

社会的事業とは、買い物弱者への支援、子育て支援、まちづくり推進、地域活性化、社会教育などとされています。

第2公募6月1日～7月30日

第3公募8月1日～9月30日

問い合わせ先 高知県イノベーション課

☎0888-823-9781

無料 生活・法律相談会

7月21日 午前10時～12時

新屋敷事務所 皿田幸憲・弁護士

7月24日 午後18時～20時

あぞの事務所 南拓人・弁護士

*あぞの予約先:090-1171-4156